

北九州憲法ネットニュース

2006年8月25日(金) 第15号

発行 憲法をまもる北九州市民ネットワーク
803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
TEL & fax 591-5522 E-mail⇒mail@kitaq-kenpou.net
URL⇒http://kitaq-kenpou.net/

問題の根幹が見えて、実にすがすがしい気持ちになりました

品川正治憲法講演会に300名・好評でした

8月12日、ムーブで開かれた「品川正治憲法講演会」には、300名の市民が参加し好評でした。

この日は、北九州憲法ネットの第三回総会を兼ねており、まず、「平和のうたごえ」でオープンです。小倉南区で平和運動を行っている渡辺末子さんの「一本の鉛筆」ほかの独唱。北九州のうたごえ有志による合唱構成「ねがい」の



独唱する渡辺末子さん

演奏がおこなわれ会場が和んだところで、品川正治さんの講演「経済人から見た日本国憲法」が始まりました。

戦争はすべてを動員する

品川さんは、自らの戦争体験を

話しました。戦争のむごさ、恐ろしさを語ります。品川さんの足にはまだ砲弾のかけらが入っているのです。

戦争を起こすことの問題点として3つあげます。①価値観が転倒する②国の全ての力を動員する。労働力、学問、歴史学も③3権分立が壊され、戦争指導部がすべてを掌握する。さらに、日米の価値観の違いを指摘しました。この違いを認識しないと国家政策の混乱は収まらないこと、違いが明確になれば、日本の国際的役割が世界に明確になることをわかりやすく説明しました。経済人らしい話も出され、「大きな政府・小さな政府」の話も理解しやすい話でした。

総会では、名称の変更や、方針を確認

講演会終了後、引き続き「北九州憲法ネット」の総会が開かれました。

組織の名称を「九条の会・北九



講演する品川正治氏

州憲法ネット」に変更しました。役員は、従来の方に再任をお願いするとともに、若い方の役員就任も実現しました。

方針としては①地域、校区、近所に多種・多様な「九条の会」を組織する。②青年の力を生かし、ネットワークを広げる。③連続的な憲法学習会・講演会を開き、憲法講師団を組織し、各会に派遣するなどを決めました。



合唱構成「ねがい」の演奏

アンケートから

憲法講演会会場で回収されたアンケートは47枚でした。全体としての感想では「大変良い」37人と好評でした。アンケートに記載されて感想文を紹介します。

* 戦争体験と日本の経済界で活躍してこられた先生の言葉の重みを感じました。品川正治さんのお話は、これまで聞いたことのない視点で、内容が充実しており、感動しました。“国民の意思で平和憲法を守り抜けば日本も世界も大

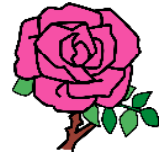
きく変わる”といわれたことに大きな確信を深めました。82歳の品川さんに決起を促され、76歳の私も年のことは言っておれないと思いました。(70代 女)

* 品川さんの話は論理的かつ、多面的でわかりやすかった。品川さんの知性、哲学を感じました。元気が出ました。(60代 男)

* 講演良かったです。立派な方だと感じ入りました。国民の出番だという考え方には目が開かれました。改憲派に押さ

れていると思っていましたが、展望が開かれた感じです。小泉「構造改革」の分析も鮮やかでした。(50代 女)

* 憲法9条に関して、もやもやしていたものが、品川さんのお話で明確になりました。問題の根幹が見えて、実にすがすがしい気持ちになりました。(10代 女)



《投稿》 品川講演会を聞いて 「横丁から大通りに」

憲法9条を護りたいと願い、連帯する者でさえ時折「自分たちは少数派ではないのか」と自信をなくすことがある。その考えや行動を「あなたの考えは間違っていない」と勇気付け、「横町から大通りに出て青空を見た(講演者の著書を引用)」思いにさせ「9条」を世界の人が尊敬し羨望していることに自身と誇りをもった講演会だった。さらに「アメリカは戦争する国」「日本の国是は平和」の声が講演会以降の日々頭の中にこだまする。

日本と韓国、日本と中国の関係を品川さんは「韓国人はかつて統治され日本人として日本軍属として命を落とした」「日本は中国を占領していた」と語りその上で「靖国問題を中国と韓国が同じ思いで日本を批判している、は間違い」と端的に解説した。この解説が15日の小泉首相の靖国参拝での両国の抗議の報道に役立った参加者は少なくない。今年82歳になる品川さんは旧制高等学校生で中国戦線に出征。8月15日の敗戦後も武装解除できず、中国に留まりやっと帰国した山口県仙崎で日本国憲法の載った新聞を貰い、前文と9条を読んで同僚と肩を抱き合い「これで我々は生きていける」と泣いたという。

多感な青年期の入り口で召集された品川青年は「国家が始めた戦争で国民のひとりとしてどう生きどう死ぬ

か」と思い悩んだと言う。だが今「問題の出し方が間違っている」「戦争を始めたのが人間ならば戦争を許さず止める努力をするのも人間」「国民主権の国は国の方向も我々が決める」と断言する。

憲法9条2項「正義の戦いもだめ」を持っているのは日本だけ。フランスもレジスタンスで戦い、中国も抗日運動を戦った。「21世紀の国際社会の課題は貧困をなくすこと」だとするとそれこそ21世紀の国際社会の理念、と品川さんは淡々と語る。5年間に及ぶ小泉劇場の観客にもならずこの風景を忸怩たる思いで見ている者に「全てをアメリカの目で見ようとしている。日本の目で見なくてははいけない」とマスコミ誘導の世論の作り方にも言及した。

経済界の重鎮としての品川さんが戦後61年を反芻しながら生きてきた人生そのものを語っているような講演会だった。だが、翻って憲法という国の「生き方」をどう思い行動するのは、実は私たちの生き方そのものでもあることを示唆したのではなかったか。「今、憲法9条の旗はボロボロだが国民は旗竿を放さない。放せ、と言っているのが改憲論者」などと分かりやすくイメージしやすいように言葉を吟味した2時間だった。

(わかまつ九条の会藤本修子)

八幡東九条の会ニュース NO2(8月3日付)より転載

憲法九条を守る八幡東区の会がニュース NO2を発行しています。その中から、一部を転載させていただきました。

呼びかけ人はどんな方々ですか？

こうりき
神力フミ子さん(宗教法人浄土真宗錦照寺住職)

待ち合わせの場所にあらわれた神力さんはカメラを前に「すっぴんだから」とさかんに気にしていらっしやいましたが、化粧気のないお顔は張りがあつて失礼ながらお年を感じませんでした。

Q1 まず、宗教家として憲法九条を守る会の呼びかけ人になられたきっかけは？



一本当を言うと九条なんてぜんぜん知らなかったのよ(と意外な答えが)。

2年くらい前新婦人(*新日本婦人の会)の河村さん(*九条の会の世話人)と知り合つて絵手紙を一緒にすることになり、『憲法九条を守ろう』と書いたほかの人の絵手紙を見て

「それ何？」って初めて九条を知つたの。その後、会をつくりたいからと河村さんから頼まれて呼びかけ人になる承諾をしたんです。

Q2 憲法九条と浄土真宗の教えとどういうところに接点がありますか？

—浄土真宗の浄土とは、極楽すなわち仏の世界のことで、ご本尊の阿弥陀如来様は蓮の花の上に立っていらっしやいます。蓮の花は、水面に出ている花は一本だけど、水の中の根は広がつてつながつています。そういうところから「皆で手を取り合つていく」という意味があるんです。私のところは親鸞聖人と聖徳太子の像があるのですが聖徳太子は和を唱えられたところが九条の平和主義と一緒になんですよね。

Q3 沢山の請願署名を集めていらっしやいますが、皆さんの反応はいかがでしたか？

—信者さんのところを回つたんですけど「九条をご存知です

か？」というと二人中8~9人がご存じないんです。そこで「九条って戦争をしないということなの、戦争をしないほうが良いでしょ？」というと「そうですね」となつて、「でも国は九条を変えようとしているから変えさせないようにしようという運動なんですよ」と言つてすぐ署名して下さつたんです。中に一人だけ「今の若者には軍隊が必要」と言う方がいましたけど、戦争に行かれた方は「絶対にあんな時代になつてはいけません」と言われますね。

帰り際、「今、世界のいろんなところで起こっている戦争は宗教戦争になっているのよね。宗教とは“自分の心を問いかけて行く”ことで、政治とは全然別物なのに、宗教で国を治めるのは間違いだと思う」ときっぱりと言われたことが印象的でした。会にカンパもいただきました。

カンパ・メッセージありがとうございました。(敬称略)

7月 米田禎夫 渡辺末子 酒見辰正 野瀬秀洋 山本猛雄
財前曜一 桜河内正明 玉井史太郎 門司法律事務所前野
宗俊 松永奉義 城下静子 井上トシエ 井上義昭 高智彦

佐多道人 黒坂佳男 竹内俊一 新地美智子
8月 清水義則 瀬川負太郎 富士本和博 入江英之 安部
博純 藤本久子 竹下秀俊 田中信而 清松賢治

●しがない年金暮らしとまとめたのキャンペーンはできませんので小額ご寛容下さい。

—子や孫をその手に殺すや改憲へ投ず一票に残禍招きて— 7/27 T. F

●郵送料です。小額でもうしわけありません。 7/31 K.. Y

キャンペーンのお願い
北九州憲法ネットの活動支援
キャンペーンをお願いします。
郵送料金などの活動費用に充
てます。同封の振込用紙をこ
利用ください。
ご協力よろしくお願ひします。

《行動・会議などの予定》

9月2日(土)「国民投票法案阻止、憲法闘争の飛躍を
めざす第4回全国交流決起集会」11時~16時半
東京 銀座ブロッサム(中央区民会館)

9月3日(日) 11時 小倉区民ネット小倉駅前宣伝

曾根地区・九条の会講演会開く

講師は代表世話人の鈴木渉氏

7月29日(土)午前10時半より、鈴木渉氏による講演会を曾根東市民センターにて行いました。約20名の出席者でした。講演に先立ち、うたごえ活動をされている嶋井さんによる指導で「九条で SUN、SUN,SUN」を合唱しました。一曲歌うことで、雰囲気はなごみました。

講演では、鈴木さんに、そもそも憲法九条がどういう役割を果たしているのかを中心として、平和主義や自衛権、北朝鮮のミサイル問題などについて、話をさせていただきました。講演を聴くことで、出席者一人一人が、違った視点から九条を見直すことができたと思います。今後もこのようなミニ講演会を曾根地域で開き、多くの人と九条や平和について語り合えるようにしていきたいと思ひます。(F)

(ごけんコラム)

経済人

品川正治さん。82歳、日本興亜損保という会社の社長・会長を経て、経済同友会の専務理事に就任した経歴を持ち、現在、日本開発センター会長、経済同友会終身幹事。この財界の中核にいた品川さんが、今、全国を周って「憲法9条をまもれ」の講演をしている。12日に開かれた北九州憲法ネット主催の「品川正治憲法講演会」の会場にも日本興亜損保の北九州支社から幹部が数人、品川さんに表敬挨拶する姿が見られた。北九州憲法ネットは、品川さんの持つ“経済人”の面を活用して、これまで、接触できなかった経済界への働きかけを行っている▼経済人というイメージは、政府・政権に近い存在で、労働者や、民主的活動団体との距離は遠いものがある。しかし、品川さんはその中であって、異色の、憲法守る講演や発言しているが「自分は、孤立感はない」と言う。財界や経済人の中にも、品川さんと同じ、“護憲派”は他にも存在するようである▼品川さんの信念の出発点には、自ら体験した戦争の恐ろしさ、むごさがある。自分の膝には、戦地で受けた砲弾の破片がまだ残っている。戦後復員した時、品川さんは、新憲法をみて大きな感動を受け、「この憲法の元なら生きていける」と確信した。その憲法を踏みにじる勢力に大きな怒りをもつ。高齢でありながら、きちんとした姿勢、豊かな声での90分の講演に多くの聴衆が感動した。経済人・品川さんの、引き続き活躍を願うばかりである。(盾)